基　本　施　策　評　価　シ　ー　ト

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号　30

基本施策　地下水の保全と湧水文化の再生

構成施策

施策番号	施　策　名	施策最終評価
施策1	地下水保全活動の啓発と支援	B
施策2	地下水の保全	B
施策3	湧水文化の再生	B

成果指標

指　標	内　容	令和2年度目標	令和元年度末実績	単位	令和元年度の成果の検証
11月の平均地下水位	大野市地下水保全管理計画に基づく、3カ所の基準観測井における11月の平均地下水位	御清水観測井1.20未満 春日公園観測井5.50未満 菖蒲池（浅井戸）観測井7.00未満 (過去5年間の平均)	御清水観測井1.44 春日公園観測井6.46 菖蒲池（浅井戸）観測井7.62	m	成果指標となる11月の平均値では、3カ所の基準観測井すべてで、基準を下回る状態となった。令和元年度は、9月と11月に雨が少なかったことと、10月16日～11月22日まで真名川頭首工の工事に伴う断水や、水田湛水事業の開始時期が遅れたことにより、地下水位を低下させる方向に影響を与えた。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現　状	高度経済成長期以降、地下水位の低下や湧水の減少が進み、貴重な資源である地下水や古くから受け継がれてきた湧水文化の後世への引継ぎが困難になりつつある。
課　題	この湧水文化を後世に引き継いでいく環境を創り出すため、市民や企業、団体、関係機関などがそれぞれの役割を担い、市全体で総合的な取り組みを進める必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

湧水地周辺の住民による清掃活動等湧水地の保全活動や市民団体による河川清掃など継続した活動が行われている。
加えて、水への恩返しキャリングウォータープロジェクトを通じて、市民に水の有難さを再認識する機会や、子どもたちが水の大切さを学ぶ機会が増えている。
また、水に関する学習研究施設「越前おおの水のがっこう」が整備され、今後、水に関する学習の場、大学等の研究機関との共同研究の場として活用が期待される。

現在の「現状」と「課題」

現　状	地下水保全の活動が市民の中で広がりを見せているものの、全体的にはまだまだ地下水の節水に対する市民意識が低く、節水や有効利用のための施設整備の取り組みが少ない。 降水量による影響は大きいものの、市内の地下水位は経年的に回復傾向にあり、地下水保全管理計画および湧水文化再生計画に基づく各施策の効果が表れてきている。
課　題	・広く市民への広報活動を行うことで、地下水に関する市民意識を醸成するとともに、地下水の節水等のための取り組みを促進する必要がある。 ・国の「水循環基本法」の施行等に対応するため、市域全体における水循環を網羅した「（仮称）越前おおの水循環・湧水文化再生計画」の策定を進め、市民の水循環に関する意識を高めていく必要がある。

基本施策の「成果」

成　果	・水のがっこう出張事業を6つの小学校で実施し、子どもたちに水環境や水問題について学ぶ機会を提供した。 ・本市の水循環に関する研究を筑波大学など8つの大学と共同で行った。今後、これらの結果を健全な水循環のまちの確立のために活用する。 ・水に関する学習研究施設「越前おおの水のがっこう」の整備が完了し、世界水の日の3月22日に開校した。 ・地下水保全について、水田湛水事業を30haの圃場で実施し、冬期間の地下水位の低下を抑えることができた。 令和元年度は、平成30年度の5年確率渇水年に続き、20年確率に相当する渇水年となった上、工事による農業用水の断水により水田湛水事業の開始時期が遅れたことから、地下水保全の具体的な数値目標として定める基準観測井（御清水、春日公園、菖蒲池）での最終保全目標水位を下回った日数（超過日数）は、322日となった。大野市の地下水は降水量や降雪量の影響を受けやすく、今後も継続した取組が重要である。

改善点

・市民が本市の水環境に自信と誇りを持てるよう意識の醸成を図るため、水への恩返し事業では、第二ステージとして越前おおの水のがっこうを拠点に「水の教育」「水環境の保全、継承」などの取組みを進める。
・越前おおの水のがっこうを、水に関する研究の拠点として大学等との共同研究におけるフィールドワークの基地として活用するほか、水を切り口とした講座の開催や書籍の閲覧、貸出しなどによる学習の場として活用するとともに、本願清水イトヨの里とも連携し、視察や遠足の受け入れによる情報発信の場として活用することで、地下水の保全や有効な利活用を推進するとともに、市民の水循環に関する意識の向上に努める。
・持続可能な地下水の保全と利用に向けて、新たな国の「水循環基本計画」の趣旨を踏まえ、本市の（仮称）越前おおの水循環・湧水文化再生計画の策定に取り組む。